

令和8年度年金広報の取組について

年金広報の取組と今後の進め方について（案）

1. 年金の基本的な仕組みの広報

(1) 年金制度の基本的な仕組みの理解の促進の対応

(検討課題)

- 若年層を中心に年金に対する漠然とした不安や不信感が根強い。

(検討の方向性)

- 年金制度の基本的な仕組みや社会の変化に合わせた制度の見直しの趣旨・内容について、国民の理解を促進するための重点的な項目や伝え方を検討してはどうか。

(2) 誤情報や受動的な情報収集への対応

(検討課題)

- 年金不安解消には全世代向けの積極的な広報が不可欠。SNSを活かした双方向かつ機動的に誤情報に対応し、信頼を築く広報を行う。
- 自ら情報を取りに行く層には情報は届いているが、受動的な情報接触層へのリーチが課題。受動的な層へのリーチを強化する必要。

(検討の方向性)

- SNSなどを活用した短い動画やウェブ広告で、自然に情報に触れてもらう広報を検討してはどうか。

2. 生涯を通じた年金教育の強化

(1) 学校教育における課題への対応

(検討課題)

- 若年期からの年金教育の導入・強化の必要性が指摘されている。学校における年金教育について、教育現場の声を聴きながら、課題を整理する必要。

(検討の方向性)

- 本検討会において、教育現場の声を聴きながら、課題を整理し、学校で活用可能な教育資材を開発するなどして、課題を解決し、年金教育を強化するための方策を議論してはどうか。

(2) 学校への派遣型授業の課題への対応

(検討課題)

- 学校現場への多様な団体からのアプローチが飽和状態にある中、厚生労働省などが統一した方向性を示すなど、連携を強化した対応が望まれている。

(検討の方向性)

- 年金関係団体の情報発信について、それぞれの団体の訴求ポイント、特徴、強み等を整理し、学校側が選択しやすいよう情報を整理して学校側に提供できるようにしてはどうか。

(3) 新社会人など多様な年金教育への対応

(検討課題)

- 年金制度を自分事として捉えられる機会を増やす必要。

(検討の方向性)

- 本検討会において、現場の声を聴きながら新社会人向けに課題を整理し、解決するための方策を議論してはどうか。「年金の見える化」も引き続き進める。

3. 年金広報の進め方

(検討課題)

- 年金広報・教育において、ゴールの設定と共有化、プロセスの明確化、KPIの設定及び効果検証が重要との意見あり。また、「縦の深掘り」と「横の広がり」両面から把握することの重要性についても意見あり。

(検討の方向性)

- 年金制度の基本的な仕組みへの理解の状況について、引き続き、統計調査や世論調査を通じて把握してはどうか。

4. 令和7年年金改正法の周知

(検討課題)

- 年金制度改正に関する広報については、一般の見直しの内容に加え、年金制度の基本的な部分も併せてきめ細かく周知・広報する必要。

(検討の方向性)

- 制度改正の趣旨、対象者や施行時期などを国民にわかりやすく伝えていくとともに、事業主に対しても正確な情報発信に努める。

<議論のまとめ>

- ✓ユーザー視点の分かりやすい広報・情報設計が不可欠
- ✓制度の根本的意義（支え合い）を伝える工夫が必要
- ✓教材・情報は“整理”と“入口の一本化”が急務
- ✓公的年金シミュレーターは教育効果が高く、拡充の価値大

令和8年度 年金広報・年金教育の取組（案）



年金広報、年金教育の中期的な取り組みのイメージ（案）

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
制度施行等	4月 在職老齢 企業型DC拠出限度額の拡充 （マッチング拠出） 10月 貸金要件撤廃 保険料調整制度 国年育児免除 12月 iDeCo加入可能年齢・ DC・国基の限度額の引き上げ	9月 標準報酬(→68万円) 10月 適用拡大(35人超)	4月 遺厚(有期化) 遺基(要件緩和) 子の加算 9月 標準報酬(→71万円)	9月 標準報酬(→75万円) 10月 適用拡大(20人超) 適用拡大(個人事業所) ※令和11年財政検証(予定)
企業・従業員	新社会人向け年金教育に関する課題整理 マッチング拠出、DCの限度額見直しの周知	適用拡大特設サイト ユーザー調査 新社会人向け年金教育の課題を踏まえた対応	適用拡大特設サイト改修	年金法案の説明資料作成
	職域における投資教育の推進を含む私的年金制度の理解促進			
国民全般	公的年金シミュレーター試験運用(障害・iDeCo) 年金ポータル改修 12月施行に向けたiDeCo拡充の周知広報	公的年金シミュレーター本格運用 公的年金シミュレーター 予算要求(P) 遺族年金周知・広報(パイドメディア、動画、WEBコンテンツ等)	公的年金シミュレーター改修(P)	試験運用(P)
	iDeCo拡充を含む私的年金の普及促進に向けた広報			

インフルエンサー等を活用した周知・広報＜新規＞

◆目的

- ・ 若年層（特に10代～20代）の年金制度に関する認知度の向上を図る。

◆対象

- ・ 普段、年金制度に関する情報に触れる機会が少ない若年層（特に10代～20代）。

◆手段

- ・ 若年層の利用率が高いInstagram等において、社会保険や金融に関する情報を日頃から発信しているなど、年金制度について発信するのに相応しいインフルエンサーを複数名登用し、厚生労働省が指定するテーマに関する投稿を各自で作成して投稿してもらう。
- ・ 初回は試行的に、インフルエンサー2名、各3回の投稿を想定。効果測定を行い、結果を基にその後の事業実施の検討を行う。

＜テーマ案＞

- 公的年金制度の概要・意義（2階建て、3つの年金給付（老齢・障害・遺族）、人生のリスクに備える保険など）及び私的年金
- 国民年金と厚生年金（加入要件、保険料など）
- 3つの年金給付（老齢、障害、遺族）及び公的年金シミュレーター

年金対話集会の実施 < 継続 >

令和8年度も引き続き年金対話集会を開催する。開催にあたっては、地方厚生局および管轄の年金事務所とより一層の連携を進めていく。

◆ **開催対象**：全国の大学

◆ **周知方法**：厚生労働省HPで募集するほか、前年度実施した学校等には、年金局からも開催案内を送付。

◆ **令和8年度申込数**：22校（うち新規9校）（令和8年2月末時点）

◆ **開催方式**：下記の2部構成を基本としつつ、参加人数や学校側からの要望に応じて、講義形式やワークショップ形式でも開催。

第1部（45分）：年金局職員から年金制度に関する説明

第2部（45分）：数人のグループに分かれ、大学生と年金局職員が座談会方式で意見交換

◆ **講義内容**：公的年金の基本的な仕組み、公的年金の意義、働き方と公的年金、令和7年年金制度改正など。学校側と相談して決定。

◆ **重点項目**：

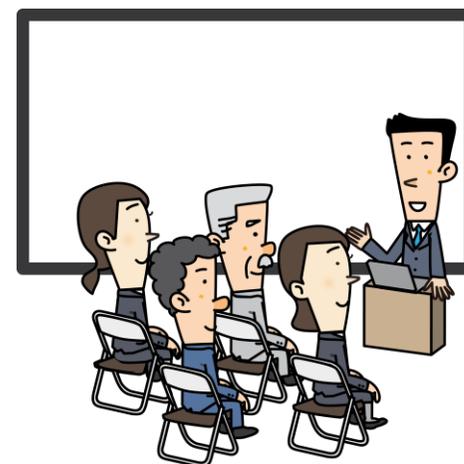
- ・ 地方厚生局および管轄の年金事務所との連携を進め、年金対話集会の地域での定着を図る。
- ・ 学生から要望の多い、公的年金と私的年金を組み合わせた老後の資産形成に関する情報も拡充していく。

社会保険関係団体等への講師派遣〈新規〉

社会人向け年金教育の一環として、社会保険関係団体等が開催するセミナーに講師を派遣し、年金制度の周知を図ると共に、課題を特定する。

【概要】

- 社会保険労務士団体や労働組合などが開催する年金セミナー等に年金局職員を派遣し、社会人に対する年金制度周知を強化する。
- 同時に、社会人に対する年金教育にかかる課題について、現場の意見をヒアリングし、課題を特定する。



年金ポータル改修＜更新＞

年金ポータルの年金教育に関するページを整理・拡充し、ユーザーが必要な情報を入手しやすくなるよう改善する。

＜課題＞

学校における年金対話集会等の取組を評価いただいている一方、多様な団体からのアプローチが飽和状態にある中、連携強化や情報の整理・一本化が望まれている。

＜今後の取組案＞

- ①各団体による学校現場における年金教育の取組に関する情報を整理して掲載し、ユーザーが取組を利用しやすいようにする。
- ②その他のページについても、ユーザーの利便性向上のため、画面構成や画面遷移等の改善点を検討する。
- ③「水先案内人」の名前を募集する。（年金対話集会の事後アンケートで募集することを検討）



公的年金シミュレーターのKPIについて

【課題】

- ・ 経済財政諮問会議の会議資料「経済・財政新生計画 進捗管理・点検・評価表2025（改訂版）」「社会保障 2. 年齢・性別に関わらず生涯活躍できる環境整備」「2 高齢者就労促進」の関連施策に「公的年金シミュレーター」を掲載することとなった。
- ・ **KPI第2階層（中間アウトカム）の設定について、ご助言をいただきたい。**（下記KPI第2階層は暫定。）
 （案）
 - ・ 公的年金シミュレーターに関して把握している数値は、**トップページ、試算ページ、FAQページへの累計アクセス数。**
 - ・ **「試算ページへのアクセス数」を用いて、「前年度末よりも単年度のアクセス数が増加すること」としてはどうか。**
 （※）現在記載している「公的年金シミュレーターの利用者数（延べ人数）」に記載している人数が、「試算ページ」への累計アクセス数。

社会保障 2. 年齢・性別に関わらず生涯活躍できる環境整備

KGI(最終アウトカム)	KPI第2階層(中間アウトカム)	KPI第1階層(アウトプット)	関連施策							
	○公的年金シミュレーターの利用者数（延べ人数）【F】 <table border="1"> <tr> <td>目標値</td> <td>- (今後検討予定)</td> </tr> <tr> <td>中間値</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実績値</td> <td>2024年度末時点： 約 761 万人</td> </tr> <tr> <td>2023年度末時点： 約 381 万人</td> </tr> </table>	目標値	- (今後検討予定)	中間値	-	実績値	2024年度末時点： 約 761 万人	2023年度末時点： 約 381 万人	○UI・UXを改善するための公的年金シミュレーターのアップデートを行う。	a. 公的年金シミュレーター 《所管省庁：厚生労働省》
目標値	- (今後検討予定)									
中間値	-									
実績値	2024年度末時点： 約 761 万人									
	2023年度末時点： 約 381 万人									

- ①KGI（政策目標の達成を確認するための指標）
- ②KPI第2階層（施策の実施成果を測定するための指標）
- ③KPI第1階層（施策の進捗状況を測定するための指標）

令和8年度の年金広報検討会の開催案

令和8年度

1回目
(6月～7月頃)

- 公的年金シミュレーターの試験運用状況の報告
- 年金ポータル改修案
- 新社会人向け年金教育に関する課題の特定
- 各団体の活動報告

2回目
(11月～12月)

- 年金ポータルの開発状況
- 新社会人向け年金教育に関する課題の整理
- 広報動画の作成
- 各団体の活動報告

3回目
(3月頃(P))

- 年金ポータルにかかる報告
- 新社会人向け年金教育に関する課題への対応方針
- 令和9年度の年金広報計画(全体)
- 令和9年度制度改正に関する広報方針(適用拡大・遺族)
- 各団体の活動報告